

心のメッセージ

友情

“親友”^{しんゆう}と言われたときに、みんなは誰か^{だれ}思い浮かべる人^{ひと}はいるだろうか？先生^{せんせい}は、中学^{ちゅうがく}、高校^{こうこう}、大学^{だいがく}と、たくさん^{ひと}の人^{ひと}と出会う^{であ}中で、仲^{なか}のいい友人^{ゆうじん}をつく^{つく}ことができたが、“親友”^{しんゆう}と言われると、「いったいどんな^{かんけい}関係が親友^{しんゆう}なんだろう」と常に^{つね}疑問^{ぎもん}を抱^{いだ}いていた。

それがわ^わかってきたのが、^は恥ずかしながら、つい最近^{さいきん}になってからだった。どうしてわ^わかったか。社会人^{しゃかいじん}になると、それぞれが仕事^{しごと}や家庭^{かてい}を持ち、とても忙^{いそが}しくなる。頻繁^{ひんぱん}に会^あって遊^{あそ}ぶなんてこともできなくな^{ことし}ってくる。今年^{ことし}はコロナウイルスの影^{えい}響^{きょう}で外^{がい}出^{しゅつ}もしにくい。そんな中^{なか}でもテレビ電話^{てんわ}などをつか^{つか}って「それぞれ時間^{じかん}を作^{つく}って会^あおう」となる人^{ひと}がいる。こうやって会^あいたくなる人^{ひと}が“親友”^{しんゆう}なんじゃないかと思^{おも}った。

そして、もう1つわ^わかったことがある。そんな“親友”^{しんゆう}はみんな、「自分^{じぶん}と一緒^{いっしょ}に1つのこと^{いっしょうけんめい}を、一生懸命^{ひと}頑張^{ぶかつ}ってきた人^{べんきょう}たち」だ。部活^{ぶかつ}や勉強^{べんきょう}など、1つの目^{もく}標^{ひょう}に向^むかって、頑張^{がんば}ってきた絆^{きずな}はとても深^{ふか}いんだと思^{おも}った。心^{こころ}の底^{そこ}からお互^{たが}いの成功^{せいこう}を願^{ねが}う気持^{きも}ちは、今^{いま}もその当^{とう}時^じも変^かわらない。

3月^{わか}は別^{きせつ}れの季^き節^{せつ}。3年^{そつぎょう}生^{せい}は卒^{みち}業^{ぎょう}。それぞれ^{はな}の道^{みち}を進^{すす}んでいても、離^{はな}れていてなかな^あか会^あえなくても、彼^{かれ}ら^{かれ}の成^{せい}功^{こう}を信^{しん}じているし、応^{おう}援^{えん}している。みんなにも、そ^つんな^つかん^つ係^{けい}、友^{とも}達^{だち}を野^の村^{むら}中^{ちゅう}学^{がっこう}で作^{つく}ってほしい...